

今月の
テーマ

新社会人のマネープラン「最初が肝心」

就職予定の方は今頃あれやこれやと、何かと忙しいに違いないが、その心中は如何ばかりであろうか…。スーツや身の回りの品の準備もさることながら、期待と不安が交錯している状況かもしれないが、気負わず身構えず、自身の個性を信じてほしいものだ。

これまで、経済的な部分はもとより生活全般にわたって家族へ依存する部分が大きかったであろうが、ここからは全てにわたり“ひとり立ち”をしなければならない。しかし、その自立は誰がサポートするのだろうか…？子どもに対し、自立しろと口だけで言ってもそれは無責任というものだ。鳥や獣だって自立、すなわち外敵から身を守る術や、エサの取り方などを身に付けるまでは側に寄り添ってくれる。では、人間社会ではどうだろうか…？新社会人が、何の援助も受けずに生きていくには、どう控えめに見ても充分だとはいいたいと思うのだが皆さんはどう思われますか…？親として、社会人の先輩として、社会全体として、若者に対する系統立てた生きる術を伝えるという責任を果たしているだろうか…。

公道で自動車を運転するには、自動車学校で運転技術を学び、道路交通法などの関係法令を学び、試験に合格し、ようやく免許皆伝、運転できるようになる。社会人として生きていく術を、これに重ねて考えるなら、技術も情報も与えず無免許で社会という公道を走るようなものだ。結果、若者が金融トラブルに巻き込まれたり、社会との協調を果たせないまま孤立しかねない。動物社会と違い、人間社会においては身に着けるべき課題は実に多い。若者に限ったわけではないが、高度に発達したデジタル社会ではより強固なセキュリティー対策が求められるし、デジタル機器の使いこなしにあっては熟年世代であっても学び続けなければならない。人類は本当に進化したのだろうか…！？今月は、新社会人に対する情報提供のあり方を一緒に考えてみようではないか。

つぶやき
がんちゃん

生活知恵袋

生活に何かと役立つ連載コラム

せいかつちえぶくろ

Vol. 129

● 新社会人の意識・知識レベルは

人が学び成長するという背景としての社会構造は、現在と半世紀を遡った場合、何が変わったのだろうか…。経済面で見ると劇的に発展し、食べ物も生活資材も実に豊かになった。一方半世紀前はというと、経済の成長期とは言え、誰もが必死に働き、子どもとも言えどもそれなりに社会との係わりが必要であった。結果として、それが経済観念を育て、人間性をも育んだのではないだろうか。いわゆる、特に何もなくても社会人が育てていたような気がする。今はというと、子どもは特に何もせずとも必要な物や欲しいものが手に入ってしまう。時代だと言ってしまうばそれまでだが、生活の単位が少数化し、人間関係も希薄化しているような気がしてならない。すなわち、若者の生活面での知識や意識は、ひと頃と比較し明らかに不足してしまった。特に秋田県民の体格は、全国的に見ても優れているし、学校教育における成績等でも目を見張るものがある。それはそれとして歓迎すべきだが、問題は別にある。

● 親子で考える「ひとり立ち」の経済

子育てという言葉は子どもが何歳まで使うものだろうか…。一見、学校を卒業して社会人として経済的に自立するタイミングが子育て完了と思われるかもしれない。しかし、先に書いたように近年の家庭や社会に

つぶやきがんちゃん



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP・サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談メニュー

- ☑ 家計の総合診断(ライフプラン)
- ☑ 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- ☑ 住宅取得、住宅ローンの見直し
- ☑ 子どもの教育資金計画
- ☑ 年金・老後資金計画

相談料は無料です!!

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
total life support 募集代理店
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL <http://tls-akita.co.jp>



〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL <http://tls-akita.co.jp>

詳細はホームページでもご覧いただけます。

おいては、社会性や経済観念などの教育は出来ていないと考えた方がよい。同僚は良しとしても、先輩や上司との関わり方や言葉遣いを含め、改めて教えるなければならないことは多いはずだ。これまでの何不自由な生活では、自分が働いて「貯めてから買う」という習慣があまり備わってはいないと考えた方が賢明だ。社会人になったことで、お小遣いではなく自らの給料を手にすることで、自由に使えるお金の選択肢は飛躍的に広がる。お小遣いの中で不自由していた物欲が、一挙に解放され、欲しかったもの、見たかったもの、行きたかったところへの行動に突っ走ってしまうことにもなりかねない。本来的な自立とは自律心、自制心、協調性などを持ち合わせたものでなければならぬ。今このタイミングで、親子で話し合うべきこと、伝えるべきことの課題は少なくない。最低限の金融知識や社会性は伝えてあげたいものだ。とりわけ、予算に合わせたお金の使い方や、目的や目標に沿った貯蓄計画は重要だ。そして、いくら頼まれても保証人を簡単に引き受けたり、不用意なお金の貸し借りはせず、「欲しいものは貯めてから買う」という習慣を是非とも身に付けてもらいたい。プレーキの利かない暴走社会人を造らないためにも…。

● **経済の崩壊は人生の崩壊に：**

人生は経済そのものだ！人が生きていくうえでお金は無くてはならない。給料などの収入があつて、その中から食費・住居費・光熱水道費・保険料などなど、収入と支出のバランスはとりわけ重要だ。金融が発達していない時代では、あるお金が全てで貯めてから買うしかなかった。しかし、今の時代ではお金が無くてカードを差し込めばお金（現金）が出てきたり、カードを提示することで物が買えてしまう。その後には支払いが待っているのだが、金銭的な感覚がマヒしてしまうと後が怖い。カード社会では、正しい管理が出来ないまま使い続けると、収支バランスが崩れ、迷走状態に陥る。お金が全

てというつもりは毛頭ないが、新社会人が様々な誘惑に対する免疫や、経済感覚を持たないまま進めば、人生の崩壊につながるかねない。家計簿を付けることももちろん有効ではあるが、それは過去の記録に過ぎない。それより、収支の予算を立てることの方が大切と、私は考えている。参考までに、簡単な収入、支出の明細表を別表にしたのでご利用いただきたいものだ。改めて、手取り収入は意外と少ないこと、逆に支出項目は意外と多いことに気づくはずだ。

給与収入内訳

給与収入内訳	
引かれるもの	給与総支給額
	厚生年金
	健康保険
	雇用保険
	所得税
	住民税 その他
手取り収入	
支出明細	食費
	住居費
	車両費
	光熱水道費
	日用品
	被服費
	保健医療費
	交通・通信費
	教養娯楽
	その他
	貯金・繰越
支出合計	

これらの収支は学生時代とは違い、これまでに意識しなかったことも少なくない筈だ。初任給として知らされた金額はそのまます取りではなく、様々なものが引かれるということを知らない方も少なくない。大雑把に言うと、20%くらいは引かれてしまい、実質収入は概ね80%位になる。そして、その中から様々な支出が発生するわけだから、その収支を確認しそれを自らコントロールしていかなければならない。将来の支出に備えるための計画的な貯蓄や、支出を予算化することを先ずは行っていただきたい。できれば家族と一緒に考えてくれることを望みたい。そして、親と同居する場合であっても生活費として応分の負担をすべきだということを示し添えておく。

● **社会人としての自覚**

社会人として生きるにはある意味、権利が発生すると同時に責任や義務も生じることとなる。「自己責任」とは、自分の行動、言動、選択、判断のすべてに「責任」を持つことだ。責任は「権利」と一体の関係にあり、自分の権利を主張したり、行使したりすることも出来る一方で、それに伴う責任や義務を自覚することが必要だ。権利主張だけが強く、責任や義務を果たせないのであれば、ただのわがままに過ぎない。自ら権利を主張するのなら、その結果にも責任を持たなければならぬし、他人に責任を押し付けたりしてはならない。とは言っても、社会人としての在り方とは誰が教えてくれるのだろうか？…今どきの若いものは「なんて言葉はいつの世にも存在するが、そんなことを言っただけで今若い」のは当たり前であつて、若者からしたら甚だ迷惑な話だ。そんなことをいう大人の若いころが、どれほど立派だったのか？…もし、今の若者に問題があるとしたら、それを作り出した大人社会が悪いとも言える。温かい目で育てていきたいものだ。何れにしても教える方も教わる方も、謙虚な姿勢は忘れてほしくない。

● **自己責任と最低限備えるべきもの**

これまでは、全てにおいて保護者の支援に依存してこられたが、この先はそうもいかない。社会の一員として生きていく以上、病気やケガによるリスクや、マイカーでの賠償事故、自然災害や事件、事故などのさまざまな危険への備えも考えなければならぬ。車を運転する者の責任としての自動車保険、日常生活における個人賠償責任保険、財産を守るための火災保険、自分の生命や身体を守る病気やケガに備える医療保険など、どれもが他人に対する責任と、生活の安定確保には必須のものと言える。社会人として最低限備えなければならないものを、誰かが教えてあげなければならない。新社会人を社会全体で温かく育てようではないか？…最初が肝心！